

高等学校第2学年 国語科 学習指導案

期 日 平成28年10月28日(金)第6校時

場 所 熊本県立鹿本高等学校 2年4組教室

指導者 教諭 藤本 絢也

1 教材名

随筆2「枕草子 木の花は」(明治書院「精選古典B 古文編」)

2 教材について

(1) 教材観

本教材は、情報に溢れた社会の中で、古来から我が国で大切にされてきた自然の美や四季の移り変わりなどをゆっくりと味わう時間も機会も減少している現代の状況を受け、指導事項ウ「古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの感じ方、考え方を豊かにすること。」を指導するための教材として扱う。今回取り上げる『枕草子』は、作者清少納言の独特の感性が見事な筆致で描かれている。中でも今回授業で扱う「木の花は」は、その自然の花々に対する感性とともに、作者の論理性、文学的素養を読み取ることができる。これらを読み解くことで、古来より育まれてきた現代にも通じる日本人の「自然」に対する感性について考えさせたい。

また、「橘」の箇所「ほととぎすのよすが」、「梨」や「桐」の箇所の中国文学との関わりについて考えることで、先行文学を受け継ぐことでより豊かな世界を感じさせることも、生徒の感性に訴えかけるものがあると考え、本教材を設定した。

これらのことから、本教材において「学習を行うことは、古典Bの目標にある「ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深める」という資質・能力の獲得にもつながり、本校の学校教育目標の「心身を鍛え、知性を磨き、徳性を涵養して社会に役立つ人材を育成する」及び目指す生徒像の「三綱領『自主自立・質実剛健・師弟同行』のもと、知徳体の調和のとれた人間の実現につながるものである」と捉える。今回は特に「つけたい力」として「生徒同士のコミュニケーションを通して、意欲的・自主的に学ぶ態度や力」を意識した。

(2) 系統観

第1学年(6月)	第1学年(2月)	第2学年(6月)	第2学年(10月) 本時
国語総合 古文 随筆 『徒然草』 丹波に出雲といふ所 ある人弓を射ること 指導事項C(1)アウエ	国語総合 古文 随筆 『枕草子』 雪のいと高う降りた る指導事項C(1)アウ エ	古典B 随筆 『徒然草』 仁和寺の法師 指導事項(1)アイウ	古典B 随筆 『枕草子』 木の花は 指導事項(1)アイウオ 言語活動(2)ウエ

(3) 生徒観(2年4組 男子14名 女子24名 計38名)

○文系で進学意識は高く、落ち着いた学習態度のクラスである。授業において発問や課題には真摯に向き合うが、個人のクラス全体に向けての積極的な発言は少ない。しかしペアやグループで話し合いをさせると様々な発言がある。

○古典の学習に対して学習意欲の低い生徒、苦手意識の強い生徒はあまり多くなく、授業に対しては積極的に取り組んでいる。(下記アンケート2)

○古典で学んだことを実生活や価値観の形成に役立てようとする意識は高くない。(同1・3)

○生徒間のコミュニケーションを通して培いたい力、あるいはポイントを見抜く力がついていると実感している生徒は少ない。(同1・4)

○学習(古典)に関するアンケート(全37名・一部抜粋)

1・自分は、古典を授業を通して知ったこと、できるようになったことが、他の授業や普段の生活の中で活用できるのではないかと考えるようにしている。

そう思わない…4名 あまりそう思わない…21名 まあまあそう思う…9名 そう思う…3名

2・自分は、先生の話や、他の生徒の発表を聞いて、古典がおもしろくなったと思うことがある。

そう思わない…0名 あまりそう思わない…3名 まあまあそう思う…23名 そう思う…11名

- 3・自分は、古典の登場人物の考え方などを、自分の考えを持つための参考にしている。
 そう思わない…3名 あまりそう思わない…16名 まあまあそう思う…12名 そう思う…6名
- 4・自分は、古典の授業を通して、「クラスの仲間とのコミュニケーションを通して、意欲的・自主的に学ぶ態度や力」が高まっていると思う。
 そう思わない…4名 あまりそう思わない…14名 まあまあそう思う…16名 そう思う…3名
- 5・自分は、古典の授業を通して、「重要なポイントを見抜く力」が高まっていると思う。
 そう思わない…1名 あまりそう思わない…14名 まあまあそう思う…20名 そう思う…2名

(4)指導観

- 語句の意味や文法事項及び内容を理解した上で、本文を用いた問題作成を課題として設定することで「出題者」としての視点を含めたメタ認知を育成したい。
- 完璧な問題作成を目的とするのではなく、内容や主題に踏み込んだ問題を作成し、出題の意図を深め、共有する。なぜそこが大事なのかを考えることで、実生活で役に立つ文章における「ポイントを見抜く力」につなげたい。
- 各自で問題作成をした後に、まずはペアで相互の問題を解き、解答解説を行い、問題に関する感想やアドバイスを話し合う場を設定する。古文に対する積極性を自分の考えを持ち（価値観の形成）、「ことば」で的確に伝える力まで高めたい。
- 3～4名の班でそれぞれの問題を検討し練り上げ、出題意図をクラスで発表する。個→ペア→グループ→個という過程を踏むことで、自分の気づけなかった視点に気づき自分の考えが変容した、より良いものになった。という経験をさせたい。

学びを引き出す 学習活動を生む 「問い」の工夫 (言語活動の充実)	①内容に踏み込んだ問題作成及びペアやグループでの問題検討を通して、自分と異なる視点に気づいたり、重要なポイントを見抜いたりできるようにする。
学びを振り返る 思考過程の可視化と 学びの振り返り	②問題作成を通して、本文の内容が理解できるようにする。 ③自分が最初に作成した問題と、ペアの問題、班員の問題、班で作成した問題、他の班の問題と様々に比較検討することで、自分で気づけなかった問い方や問題にする箇所について考え、多角的な読みや視点に気づき、自分の考えの変容を実感できるようにする。
学びを支える 学びのUD化とICT の活用及び支持的風土	④内容理解のために、語句の意味・文法事項等を理解し、正確な口語訳をする。 ⑤生徒が自分の考えをあげる、他者の考えを知る、他者の意見を聞いたうえで自分の意見をまとめるという手順で考えを深めていけるよう、学習過程を明示する。 ⑥ペアやグループ活動を行う上で活発な意見交換ができるよう、クラスが支持的風土になっている。

3 教材の目標と評価基準

教材の目標	本文の内容を正確に読み取り、ポイントを意識して読みを深めることで、作者の視点や感性、文学的素養を理解する。		
関心・意欲・態度	読む能力	話す・聞く能力	知識・理解
①本文の内容理解、問題作成、他の生徒の問題への回答、相互評価及び検討に積極的に取り組もうとしている。	①本文のポイントとなる箇所を考察した上で問題作成ができています。 ②他の生徒の問題を解くことで、本文理解へとつなげている。	①作成問題の相互解答をして、アドバイスをしたり、聞いたりする中で、本文のポイントに気づく。	①語句の意味、文法事項を正確に把握した上で口語訳ができています。

4 指導・評価の計画(7時間扱い 本時6 / 7)

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	3	1 本文の内容を理解する。 (1)作者・作品について確認する。 (2)音読する。 (3)重要語句・文法事項に留意しながら口語訳する。 (4)作者の視点・文学的素養等について理解する。	【興味・意欲・態度】①：ノート 【知識・理解】①ノート 【学びを支える】 ④問題作成の前提となるので全員が正確に理解できるように配慮する。 【学びを支える】 ⑥ペアやグループ活動を行う上で活発な意見交換ができるよう、クラスが支持的風土になっているか観察する。
二	2	2 各自で問題・解答解説を作成する。	【関心・意欲・態度】①：ワークシート 【読む能力】①：ワークシート 【学びを引き出す】 ①語句や文法以外の、主題や作者の視点を問う問題を作成することで、重要なポイントとなる箇所を見抜けるようにする。 【学びを振り返る】 ②ワークシートに問題・解答を作成することで、自分が理解できている箇所、できていない箇所を確認する。
三	2 本 時 1 時	3 他の生徒の作成した問題と自分の問題を比較する。 (1)ペアで問題を交換し問題を解く。 (2)解答解説を見て答え合わせをする。 (3)互いに問題の感想・アドバイスを伝える。 (4)班を作り、重要な問題をまとめていく。 (5)問題作成をする過程で、重要だと思ったポイントとその理由についても話し合う。 (6)各班で発表をし、互いに発表を聞く。	【関心・意欲・態度】①：ワークシート 【読む能力】②：ワークシート 【学びを引き出す】 ①語句や文法以外の、主題や作者の視点を問う問題を協議するよう促すことで、重要なポイントとなる箇所を見抜けるようにする。 【学びを支える】 ⑤生徒が自分の考えをあげる、他者の考えを知る、他者の意見を聞いたうえで自分の意見をまとめるという手順で考えを深めていけるよう、学習過程を明示し、生徒達の動きを観察しながら適宜指示を加えていく。 【学びを振り返る】 ③自分が最初に作成した問題と、ペアの問題、班員の問題、班で作成した問題、他の班の問題と様々に比較検討することで、自分で気づかなかった問い方や問題にする箇所について考え、多角的な読みや視点に気づき、自分の考えの変容を実感する。

5 本時の学習

(1)目標 複数の問題について比較・検討することを通して、本文のポイントを考え、読解を深める。

(2)展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 3分	1 本時の目標・流れを確認する。	○作成問題の相互解答を通して、本文のポイントに気づくという目標を伝える。 ○ペアを作らせる。 【視点3】学びを支える ⑥本時の目標・狙いを認識した上で、本時の流れを理解し取り組ませる。	
展開 42分	[本時の問い]内容に踏み込んだポイントとなる問いはどのようなものか。 (10) 2 ペアの問題を解き、解答解説を受け取って自己採点を行う。 (1)何を問われているかが明確か、問いにした箇所が適切か、等を考えながら解く。 (10) 3 相互の問題について出題の意図・感想・アドバイスし合う。 (1)出題者の意図→回答者の感想・アドバイスの順に相互に言わせる。 (2)感想アドバイスはメモをとりながら聞かせる。 (22) 【言語活動】(設定の意図) 作成した問題を比較・検討させることで、生徒の思考力・表現力・ポイントを見抜く力を育てる。	○机間指導し、全体に伝えるべき問題や解答の例があれば発表させる。 ○机間指導し、出題の意図が上手く伝わらなかった例があれば発表させたり、紹介したりする。 ○問題が解けないのは、自分の理解が足りないのか、問題の意図が伝わっていないのかを考えるようアドバイスする。 ○問題の良い点は必ず伝え合う。 【視点2】学びを振り返る ③自分と同じ箇所、違う箇所の設問とその意図を相互に確認し、より内容に踏み込んだ問いを考えさせる。 評価：読む能力①②(ワークシート・観察) B基準 相互の問題を検討し、内容に踏み込んだ問いが作成されているかを考察している。 A基準 B基準に加え、話し合って内容に踏み込んだ問いを立てている。 〈B基準に達していない生徒への手立て〉机間指導をしながら、話し合いが進んでいない班にはヒントを与える。	個人のプリント 感想プリント 班問題プリント

	4 班で相互の問題を見せ合い，検討し，各班の問題を作らせる。	○ 4～5人の班を作らせる。 ○ 共通して問題にしている箇所があればポイントである可能性が高いことを伝える。 【視点1】学びを引き出す ①多くの設問に触れ，多角的な視点を考えることで，ポイントを見抜く読みを深める。	
整理 5分	5 本時の学習をまとめる。 6 次時の予告。各班代表は出題の意図を発表の準備をさせる。	【視点3】学びを支える ⑤本時の目標の達成度を意識させ，次時の流れと狙いを理解させる。	